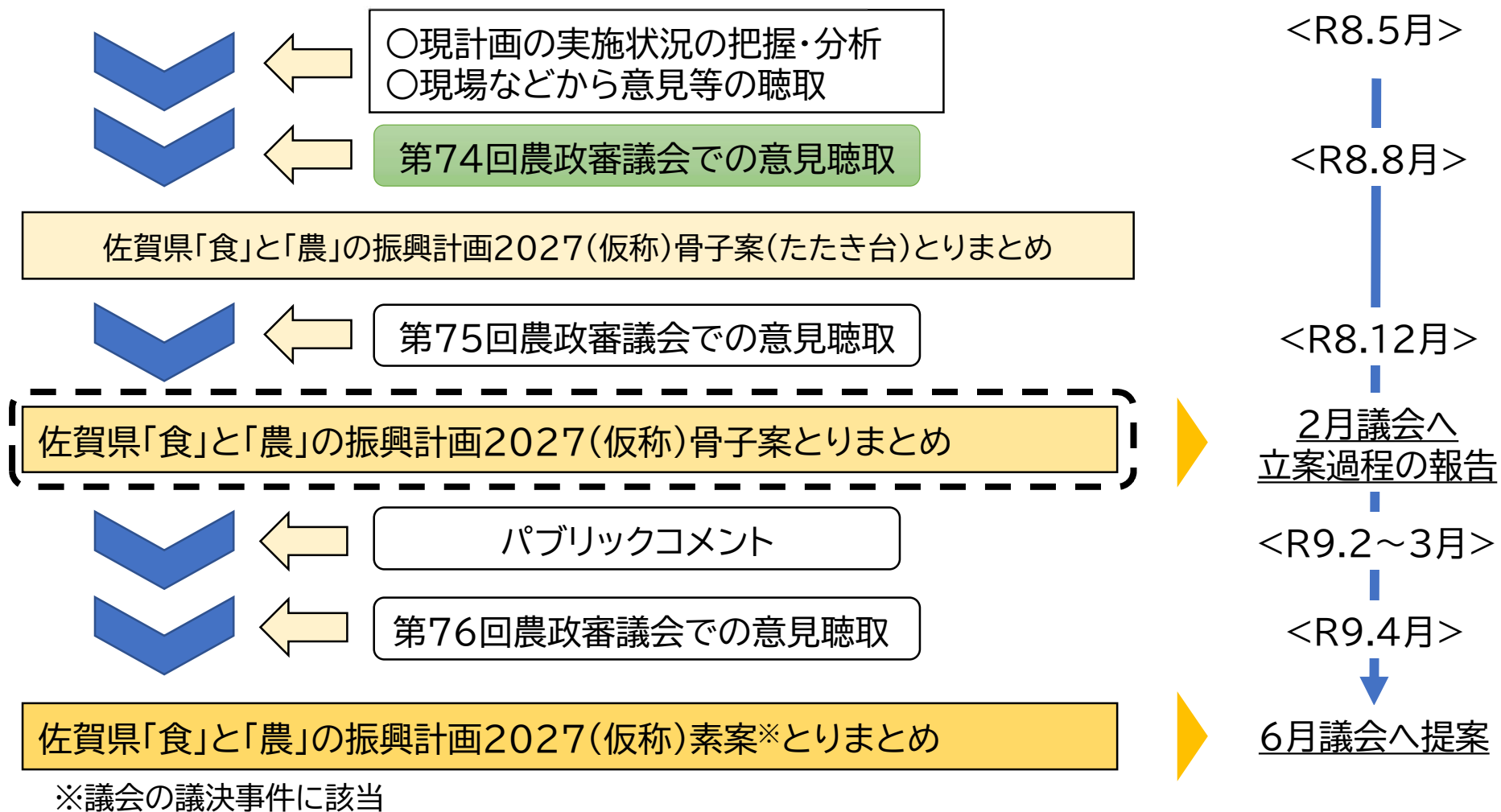


「佐賀県『食』と『農』の振興計画2023」 の見直しについて

令和8年8月4日
農林水産部 農政企画課

1 「佐賀県『食』と『農』の振興計画2027(仮称)」の検討経過と今後のスケジュール

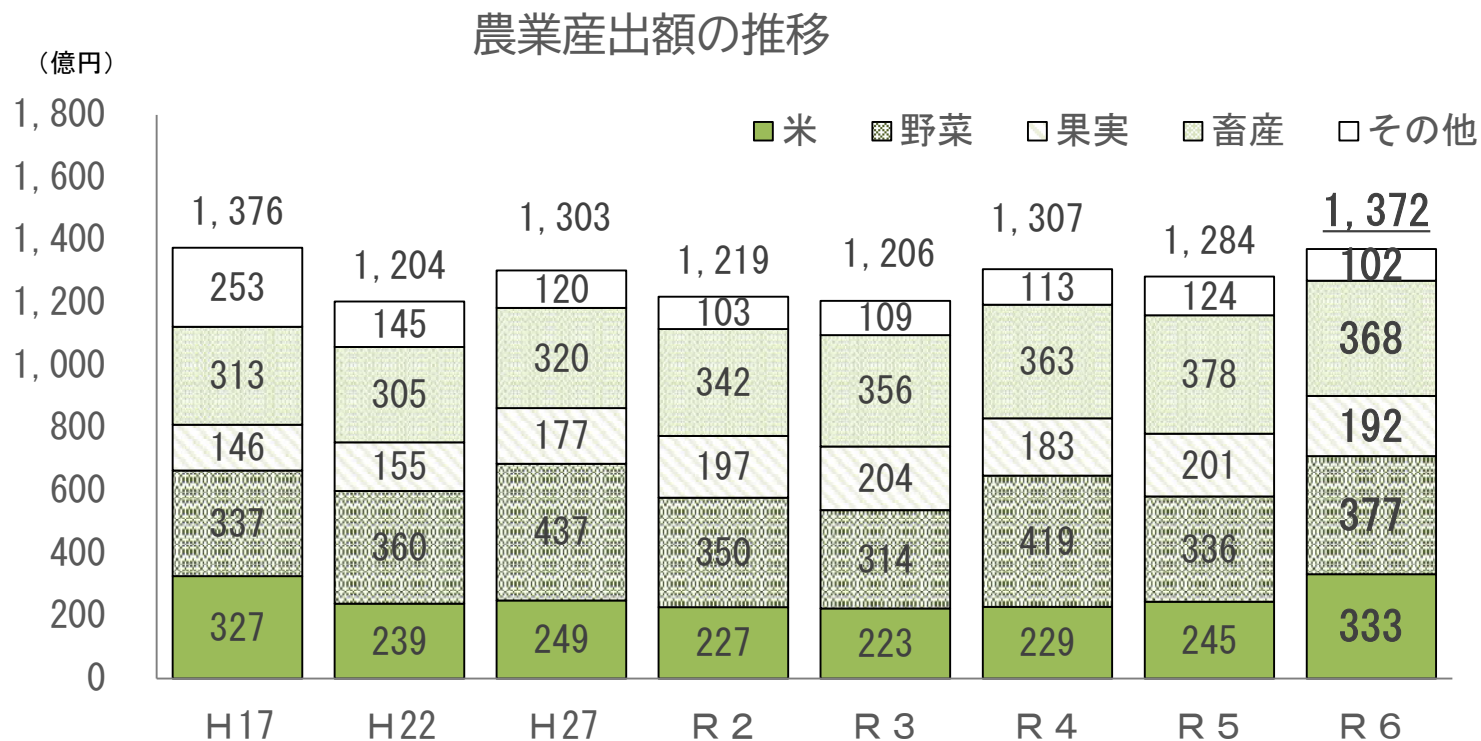
佐賀県「食」と「農」の振興計画2023の見直しスタート



総合計画見直しのスケジュールと合わせて、骨子案をR9.2月議会へ報告し、素案をR9.6月議会へ提案予定。

■ 佐賀県農業をめぐる情勢①

- R6の農業産出額は1,372億円で、R5に比べ88億円増加。
 (要因)米の単価が上昇したこと、野菜(たまねぎ、きゅうり等)の販売単価が上昇したことなど



資料：農林水産省「生産農業所得統計」
 ※野菜にはいも類を含む

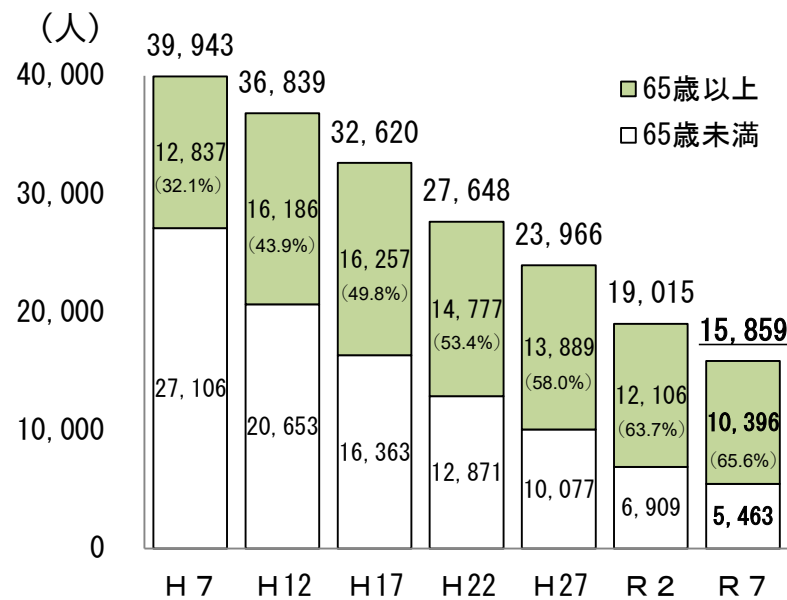
※農業産出額：

農産物の品目別生産量から、二重計上を避けるために、種子、飼料等の中間生産物を控除した数量に、当該品目別農家庭先価格を乗じて得た額を合計したもの

■ 佐賀県農業をめぐる情勢②

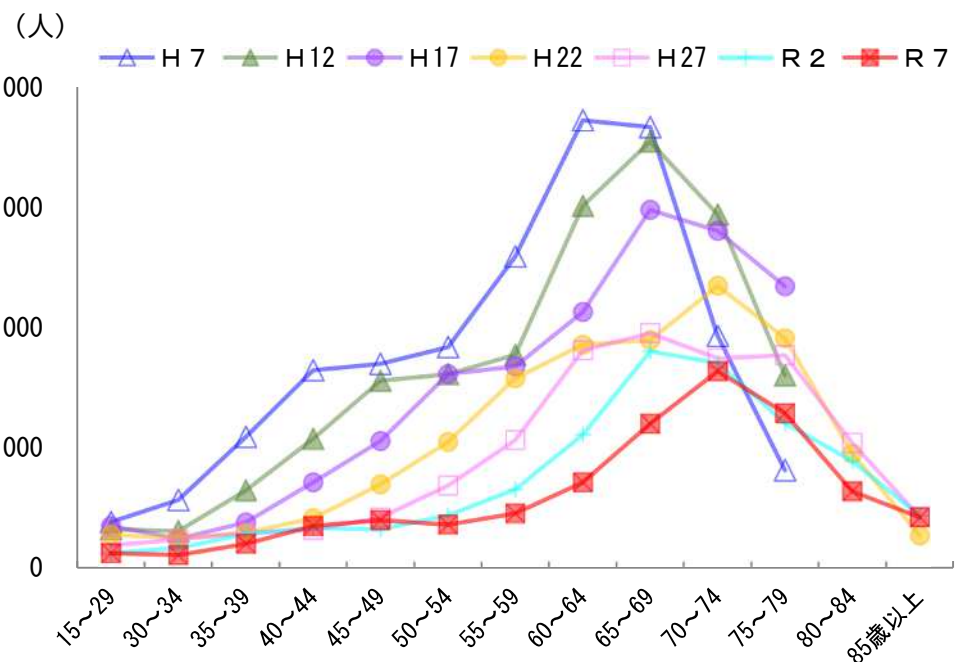
- R7の基幹的農業従事者はR2(5年前)から17%減少。
また、年齢構成別では65歳以上の割合が66%へ増加。

基幹的農業従事者数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

基幹的農業従事者の年齢構成の推移



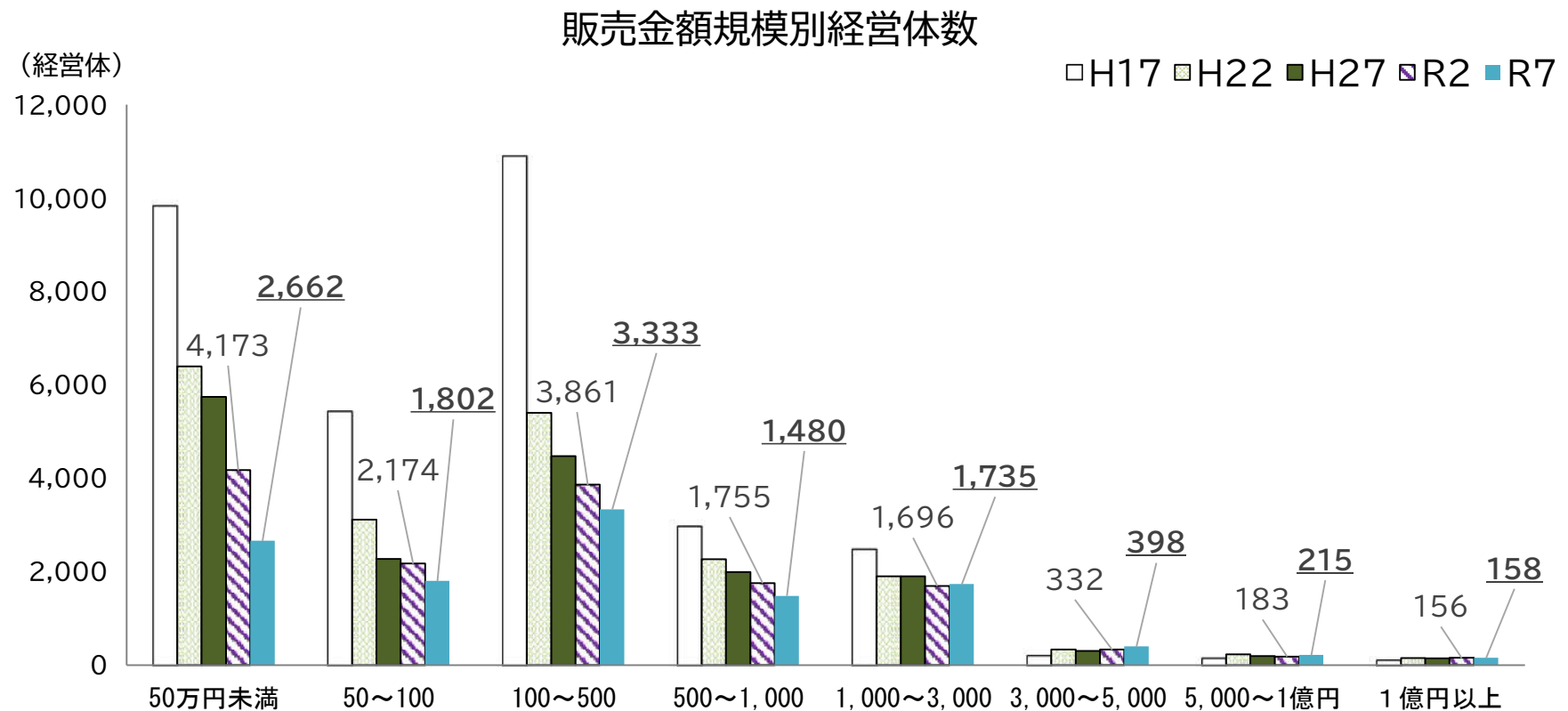
平成17年以前は、「75～79歳」の層に80歳以上を含む。

※基幹的農業従事者：

農業就業人口(15歳以上の農家世帯員のうち「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多いい世帯員」)のうち、普段の主な状態が農業に従事していた者

■ 佐賀県農業をめぐる情勢③

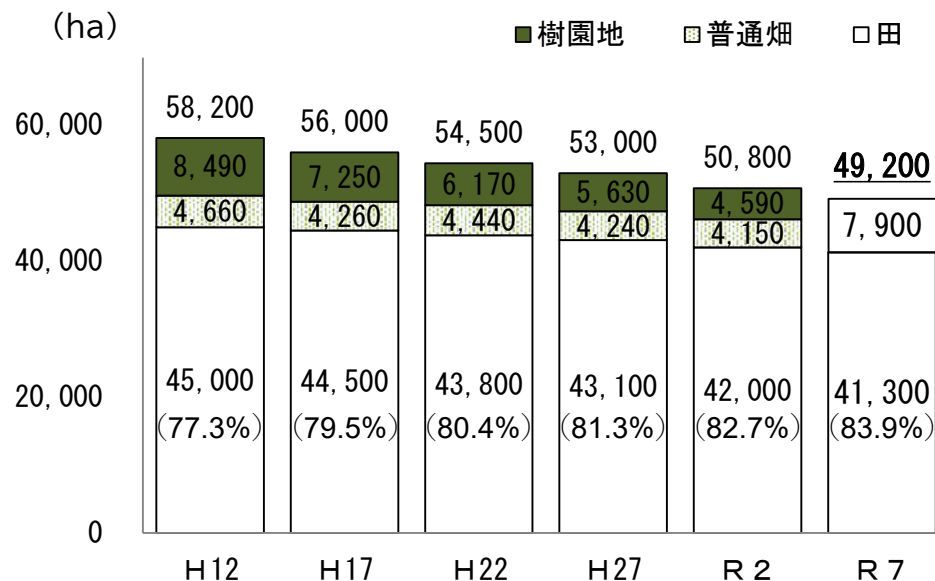
- R7の販売規模別経営体数については、R2(5年前)から、1,000万円～3,000万円の層が39経営体増加、3,000万円～5,000万円の層が66経営体増加、5,000万円～1億円の層が42経営体増加、1億円以上の層が2経営体増加したが、それ以外の層では経営体が減少。



■ 佐賀県農業をめぐる情勢④

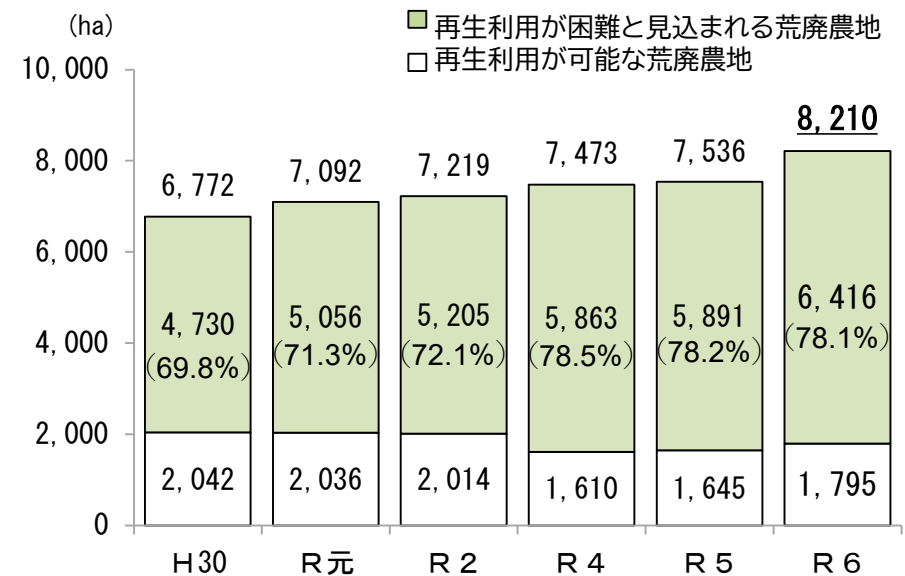
- R7の耕地面積は宅地等への転用や耕作放棄などによりR2(5年前)から1,600ha減少。
また、R6の荒廃農地面積はR5から674ha増加。

耕地面積の推移



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

荒廃農地面積の推移



資料：農林水産省「都道府県別の荒廃農地の発生状況」

○農業・農村をめぐる情勢について(2026)

農業・農村を取り巻く経済・社会情勢

○食料安全保障の確保

・世界的な人口増加、気候変動、国際紛争、物流停滞などにより、食料や肥料・飼料の安定確保への懸念が強まっている。

さらに
進行

○物価高騰

・エネルギー価格や原材料価格の上昇に伴い、農業資材、生産コスト等が高騰しており、農業経営への負担が増加

さらに
進行

○担い手不足への対応

・基幹的農業従事者は長期的に減少を続けており、平均年齢は約66歳と高齢化が進む。

さらに
進行

○気候変動への適応

・温暖化などにより、収量や品質等の低下
・災害リスクの増加

さらに
進行

○農地・農村の維持

・耕作放棄、維持管理が困難な地域が増加
・農業水利施設の老朽化
・集落機能の低下、鳥獣被害の増加

さらに
進行

○スマート農業による生産性向上

・労働力不足への対応策として導入が進む
例)自動操舵トラクター、ドローン、AI活用

新たな
変化

本県農業・農村の現状

○農業産出額の変化

・米価の上昇によりR6年産の米の産出額は増加
・担い手が減少する中でも、「さが園芸888運動」等の展開により園芸・畜産の産出額は維持

○担い手不足

・農業従事者の減少と高齢化
・就労人口の減少による労働力不足

さらに
進行

○農村活力の低下

・人口の減少や高齢化の進展
・耕作放棄地の増加
・依然として続くイノシシ等による農作物被害
・気候変動等の影響により激甚化する気象災害

さらに
進行

○農業・農村に関心を持つ人の増加

・農外企業や若者とのマッチング
・福祉などの異業種との連携の動き

国内外の動き

○経済連携協定の進展

・日本、メルコスールEPA交渉の開始 等

新たな
変化

(参考)現地機関との意見交換で出てきた主な課題等

項目	主な課題等
1 収益性の高い農産物づくり	
①施設野菜	- 施設整備コストの低減を図るため、中古ハウス活用や、過度な投資を抑えた施設整備、園芸団地・施設リースの仕組みづくりが必要。 気候変動に適応した栽培管理、品種への転換、環境制御技術の取組拡大による収量の向上に取り組む必要。
②露地野菜	農地集約・区画拡大を推進するとともに、引き続き機械化体系の導入や作業受託を含めた労働力確保に対する支援を行い作業の省力化を図る必要。 - 安定した収量を確保するため、気候変動に適応した栽培管理技術の普及が必要。
③果樹	気候変動に適応した産地への転換を図り、稼げる果樹農業に取り組む必要。 園地継承を推進するとともに、低コスト・省力化につながる樹園地整備、技術導入が必要。
④花き・茶	気候変動に適応した花き農家の経営力強化、担い手確保の仕組みづくりが必要。 - 抹茶需要の高まりを踏まえた、用途別(碾茶・番茶等)の生産拡大が必要。 - 第80回全国お茶まつり佐賀大会の開催を契機とした、更なる「うれしの茶」の需要・販路拡大に取り組む必要。
⑤畜産	肥育素牛の導入や飼料の高騰などのコストの低減を図るため、繁殖雌牛の増頭や経営基盤強化に取り組む必要。
⑥水田農業	- 作業効率化のため、農地の集約化や大区画化に取り組むとともに、それに対応した省力・低コスト技術の導入を進めることが必要。 - 老朽化した共同乾燥調製施設の再編整備を推進することが必要。

(参考)現地機関との意見交換で出てきた主な課題等

項目	主な課題等
2 スマート農業の推進、新品種、新技術の開発・普及	- 労働力不足等に対応するため、水田農業や園芸におけるデータ活用型農業や自動化技術の普及拡大を進める必要。 - 気候変動に適応した新品種や栽培技術の開発を加速し、安定生産と高付加価値化の両立を図る必要。
3 県産農産物のブランド力の向上と販路の拡大	「いちごさん」、「にじゅうまる」をはじめとした県産農産物のブランドの確立に向けた適切なブランディングを実施する必要。 - 輸出対応型牛処理施設「KAKEHASHI」による佐賀牛の輸出拡大。
4 持続可能で安全、安心な農産物づくり	- 有機農業や耕畜連携の取組、新技術を活用した温室効果ガスの排出量削減の取組等の環境負荷低減対策を推進する必要。 - 気候変動により深刻化する病虫害被害への対応が必要。
5 多様な雇用人材の確保	- 労働力不足等に対応するため、雇用のマッチングアプリや外国人材の活用、農福連携の取組の推進が必要。 - 雇用人材の確保・定着を図るため、職場環境の改善が必要。
6 地域の営農ビジョンを実現する基盤整備の推進	- 農地集約と連携した区画拡大を推進する必要。 - 地域の農業農村の将来を見据えた農業水利施設の再編整備やそれらを管理する土地改良区等の管理体制の強化が必要。

(参考)現地機関との意見交換で出てきた主な課題等

項目	主な課題等
次世代の担い手の確保・育成	
意欲のある新規就農者の確保	- 県内外に新規就農者の確保に向けて働きかけるとともに、経営開始する上で新規参入に比べリスクが低く、しっかりした基盤がある親元就農者の確保が必要。 - 就農時の投資が比較的少ない露地品目(野菜や果樹)におけるトレーニングファームなどの就農支援体制の整備が必要。 - 資材・燃油等物価高騰による経営リスクへの対応が必要。
経営力のある担い手の育成や女性農業者の活躍推進	- 個別農家の経営発展、企業的経営体の育成を支援していく必要。 - 更なる男女協同参画の実現に向けて、引き続き、女性農業者の活躍を後押ししていく必要。
企業・法人の農業参入の推進	地域計画による農地集約や地域に担い手がいない場合に、新たな担い手としての企業・法人の参入促進を推進していく必要。
優良農地の確保・集約	農業者数の急速な減少により、限られた担い手で農地を適切に維持・活用していくため、担い手への農地集積・集約及び大区画化やスマート農業の導入による効率的な農地利用が必要。

(参考)現地機関との意見交換で出てきた主な課題等

項目	主な課題等
活力ある農村の実現	
食や農業・農村に対する理解促進とイメージアップ	食や農業・農村に関する理解醸成を推進する必要。引き続き、イメージアップを図るため、情報発信・PR、ふるさと先生の派遣、農村マルシェの開催などを継続する必要。
中山間地域農業対策の推進	中山間地の農業を守るには、生産して稼ぐことに加え、その地域を守るための取組、多様な担い手の確保も重要。
有害鳥獣被害対策の推進	地域ぐるみの被害防止対策への取組の継続、捕獲対策の担い手確保・育成に向けた取組の推進、加害個体を効率良く捕獲するための体制整備が必要。
快適で安全・安心な農村づくり	農地等の適切な保全管理に向けた多面的機能支払交付金活動組織の体制強化、豪雨の頻発化などの気候変動リスクへの対応が重要。